

私たちの身近に起きる

豪雨災害

そのときあなたはどうする？

私たちの身近で起きている豪雨災害。なかでも多くの被害をもたらした、平成30年7月豪雨災害は、皆さんの記憶に新しいことと思います。

今年もまた雨の多い季節を迎えます。本市はこれまでの経験を踏まえ、さまざまな観点から災害に備えたまちの整備を進めています。今回は、本市の取り組みをご紹介します。

災害を教訓にまちを整える

多くの被害を出した「平成30年7月豪雨災害」

平成30年6月28日から7月8日にかけて台風第7号および梅雨前線豪雨により、西日本を中心に全国的に広い範囲で長期間にわたる記録的な大雨被害をもたらしました。

川西市では、鼓が滝地区、黒川地区、多田院地区において土砂崩れが7件発生するなど、記録的な被害となりました。上下水道局は、この被害を深く受け止め課題解決に努めています。

東畦野地区の 雨水幹線整備

右図は川西市の東畦野地区です。この地区はこれまでも水路が氾濫しており、平成30年7月豪雨においても、水路が氾濫し、浸水被害が発生しました。

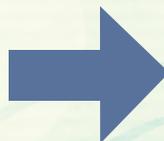
■対象区域図



■整備効果

平成30年度より浸水対策を目的とした雨水幹線の整備を実施し被害の軽減を図っています。全体計画の内、下流側の整備を完了させたことにより、令和2年7月8日未明に発生した豪雨では道路冠水などの浸水被害は発生しませんでした。

平成30年7月 豪雨状況



整備

令和元年度 整備完了後

